

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立唐崎小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

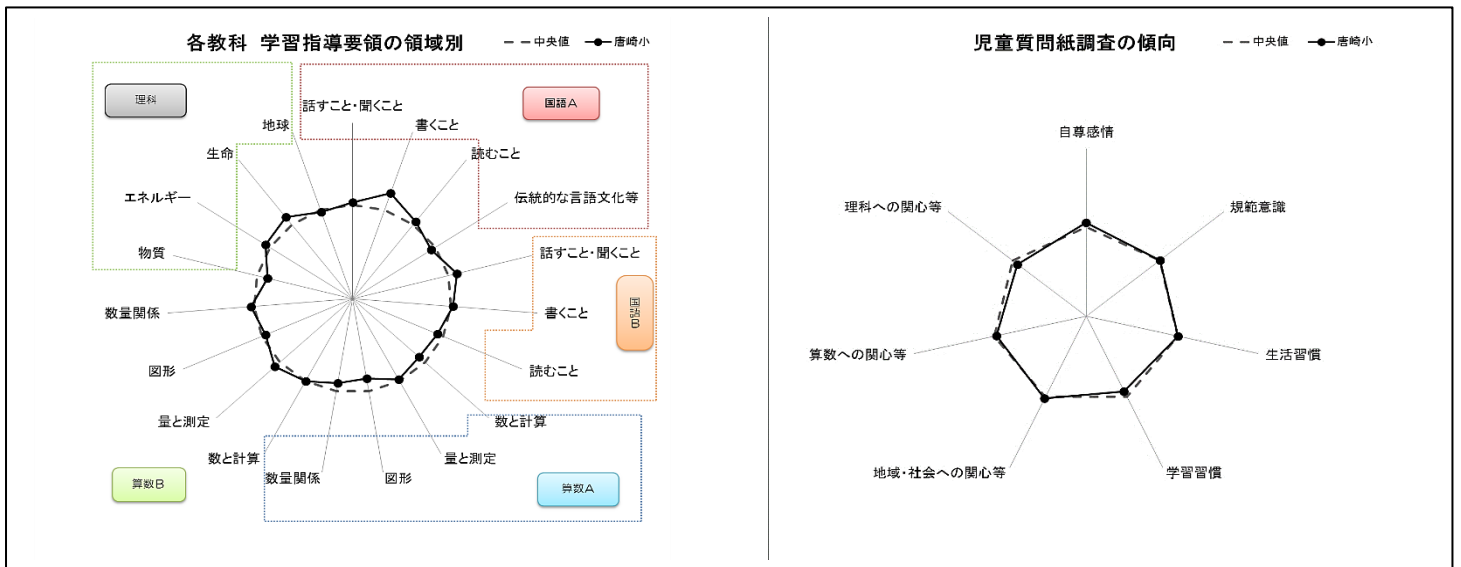
国語Aでは、多くの領域における正答率は中央値に近い傾向にあり、「書くこと」の領域については高い傾向にありました。国語Bでは、「話すこと・聞くこと」については高い傾向が、「読むこと」の領域については低い傾向が見られました。算数Aでは、多くの領域において中央値より低い傾向にありました。算数Bでは、多くの領域において中央値に近い傾向にあり、「量と測定」の領域については高い傾向が見られました。理科では、「生命」の領域で中央値より高い傾向が見られましたが、「物質」の領域で低い傾向が見られました。児童質問紙からは、「自尊感情」は中央値よりやや高く、「理科への関心」「学習習慣」はやや低い傾向が見られました。

《強み・弱み》

本校では、「めあて」と「ふり返し」、「学び合い」を取り入れた授業づくりに積極的に取り組んでいるところです。これらの日常的な取り組みが強みになって現れてきています。朝読書の習慣が定着し、落ち着いて学習に向かう児童が増え、授業でも自分の思いや考えを出せるようになってきました。一方で、最後まで問題を粘り強く読んだり、深く読み解いたりすることには、まだまだ弱さが見られます。また、算数での基礎的な知識・技能については弱さがみられます。

◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

- ・授業の初めに見通しを持って学習に臨めるような「めあて」を提示すること。授業の終わりには、自分がわかったりできるようになったりしたことや、友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことを「ふり返し」の活動を行うことを全学年共通で取り組んでいます。また、ペアやグループで話し合う場面を積極的に取り入れ、聴き合う関係づくりを推進し、児童の深い学びにつながる授業づくりにも日々取り組んでいます。
- ・授業時間だけでなくベーシックタイムや2年生を中心とした放課後学習会などを活用しながら、本調査で弱さの見られた領域の補充や国語、算数の基礎的な知識の定着に向けて取り組んでいます。